

はじめに

附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター長 松 村 直 人

令和3年度は国立大学法人第Ⅲ期の中期目標・中期計画の6年目、最終年であるとともに、フィールドサイエンスセンター（FSC）発足20周年を来年度迎えるにあたり、自己点検・外部評価作業を行った年度であった。中期計画では、FSCの目標として、「講習・生涯教育等の実施を通して地域の自治体・企業との連携を強化し、連携事業件数をⅡ期より20%増加する」が掲げられている。また、練習船「勢水丸」の目標は「共同利用拠点機能の強化により、他大学との共同利用を拡大する」である。昨年度の具体的な実施予定項目は、「FSCの現在の実施状況と他大学の実施状況を把握し、地域の自治体・企業との連携強化を図る」および「練習船の現在の実施状況と他大学の実施状況を把握し、大学間共同利用の推進方策を検討する」であった。

ただ、残念ながら、コロナ禍の中、多くの実習、イベント、公開講座等を中止にせざるを得ず、なんとかオンラインでの実施で乗り切ったものもある。

一方、年々教職員数が減っているにも拘らず、従来のミッションである本学学生の高等教育と研究に加えての数値目標を設定した目標・計画であるため、教職員が一丸となった一層の努力と合理化が求められており、その中で、各施設とも十分な成果を挙げられたと考えている。

このような令和3年度であったが、コロナ禍での貴重な、奮闘の記録を残すことにもなったかと考える。本学学生の教育や研究業務に加え、今後、ますます共同利用や社会貢献活動を強化するためには、教職員それぞれが自らの置かれた立場を理解して協力しあい、目標達成に向けて努力することが重要である。教職員間の相互理解・協力体制を強化し、これまで以上の合理的運営・活動を推進する必要性を強く感じている。

最後に、皆様方にフィールド教育・研究の重要性についての更なる御理解と御支援をお願いするとともに、本書の発行に御尽力頂いた各位に感謝する次第である。